

2001年度第8回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2002年(平成14年)3月8日(金) 14:00～16:45

場所：L-911

出席者：計 102名

欠席者：計 10名

配布資料：

- (1)2001年度第7回 長期計画企画拡大会議 議事記録
- (2)企画書(最終報告/新ホフマン計画[案])について 意見書
- (3)「グランド・レイアウト」冊子版
- (4)専門部会各検討専門委員会の最終報告書 [事前配布]
- (5)各検討専門委員会報告書(1月末現在) [事前配布]

会議資料(プロジェクタ投影)：

- (1)専門部会各検討専門委員会の企画書案(中間報告)
- (2)ソフィア・アドバイザリー・コミティーの設置に向けて

議 事

1. 専門部会各検討委員会の進捗について

専門部会各検討専門委員会における検討事項のうち、理念や具体的なポイント等をまとめることができた計画について、企画書案(中間報告)として発表した。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第1委員会 (報告：委員長・讃井学務担当副学長)

(a)「学部・学科体制の基本構想(第二次中間報告)」

- 前回(第7回)の長期計画企画拡大会議において、大筋は説明してあるため、今回は変更部分のみ、スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

(2)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会 (報告：委員長・讃井学務担当副学長)

(a)「アカデミック・プラン等検討専門第2委員会 進捗報告」

- これまでのアカデミック・プラン等検討専門第2委員会および3つの小委員会における審議内容について、スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

(3)フィジカル・プラン等検討専門第1委員会 (報告：委員長・小林総務担当副学長)

(a)「効率的かつ機能的な運営組織の再構築」

- スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

(4)フィジカル・プラン等検討専門第2委員会 (報告：委員長・粕谷総務担当理事)

(a)「赤羽男子学生宿泊施設計画」

- スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

(5)人事計画等検討専門委員会 (報告：委員長・青山人事担当理事)

(a)「多様な勤務形態に対応する人事制度の構築」

- スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

- 専門大学院で必要とされる実務家教員、あるいは、職員における一般職と専門職の区別など、これまで一律の制度で行ってきた人事制度から、多様な勤務形態に対応可能な制度を今後作り上げていく必要がある。

(6)財政計画等検討専門委員会 (報告: 委員長・Mohr財務担当理事)

- (a)「アクションプランの骨子 - 4つの項目 - 」
- スライド(プロジェクト投影資料)をもとに説明した。

(7)生涯教育検討専門委員会 (報告: 委員長・丹野公開学習センター長)

- (a)「語学講座の改革」
- スライド(プロジェクト投影資料)をもとに説明した。

2. ソフィア・アドバイザー・コミッティーについて

高祖理事長から、スライド(プロジェクト投影資料)「ソフィア・アドバイザー・コミッティーの設置に向けて」について説明があり、ソフィア・アドバイザー・コミッティーを2002年5月末を目途に設置したいとの意向が示された。

3. 新ホフマン計画(案)の審議について

各検討専門委員会における様々な企画案の検討を踏まえて、最終企画案を「新ホフマン計画(案)」として審議することとした。

なお、審議を始めるにあたって、高祖理事長から、以下の要請が各委員になされた。

- 最終報告書に書かれていることは、まだ最終的に決定したものではなく、中には微妙な問題を含んでいるものもある。そのため、最終報告書はくれぐれもその取り扱いに注意してほしい。
- 最終報告書の発表の後に質疑応答の時間をとるが、さらに委員から十分に意見を聴取したいので、当日配布資料にある「意見書」に質問や意見等を記入し、2002年3月18日(月)までに事務局に提出されたい(足りない場合は別紙に記入しても良い。また、電子メールでの提出も可とする)。提出された意見等は、関連委員会に回付し、必要があれば再度検討を重ねてもらうこととする。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

- (a)「語学教育センターの設立」
- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。
 - 現在の一般外国語教育センター(専任教員無し)を改組し、専任教員を持つ「語学教育センター」を設置する。(讃井学務担当副学長)

(2)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

- (a)「法科大学院の設立」
- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。
 - 法科大学院の設置基準は、本年(2002年)の6月頃に発表になると思われる。その時には最終的に何が必要かが明らかになる。(高祖理事長)

(b)「上智大学アジア人材養成研究センター(仮称)の設立」

- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。

(c)「上智大学地球環境大学院の設立」

- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。

(質疑応答)

Q. 地球環境大学院の自然科学部門に、現在の理工学部・理工学研究科の教員が移籍することはあるか。

A. その可能性はある。(讃井学務担当副学長)

Q. 連携大学院の構想も入っているが、実験実習を他大学に行って行うこととなるのか。

A. 実験をどのように行うかはまだ検討していないが、緩やかな連携大学院を組み、他大学に協力を求めていくことは考えられる。(讃井学務担当副学長)

(d)「上智大学研究機構の設立」

- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。

(質疑応答)

Q. 最終報告書にある、各部門の構成に関しては、各々の研究所について、すでに存続の決まったものもあれば、今後検討するものもあると考えてよいのか。また、「大学院の再編待ち」となっている研究所については、大学院とどのような関係があると考えているのか。

A. まだ決定した訳ではなく、存続の方向で考えているものもあれば、まだ検討中というものもある。また、大学院の充実に力を入れていく関係から、大学院で研究ができるものは大学院にその機能を移し、研究所と大学院を並立することは原則行わない。(讃井学務担当副学長)

Q. 伝統もあり、また、毎年客員研究員を多く受け入れて大学院とは異なった研究をしている研究所もある。そのような実情も考えていただきたい。

A. 研究の継続性という観点から、いきなり廃止ということはないよう配慮したい。(讃井学務担当副学長)

(e)「外国人客員教授(仮称)受入制度の導入」

- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。

(3)フィジカル・プラン等検討専門第2委員会

(a)「新設A地区建造物の基本構想」

- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。

(質疑応答)

Q. 夜間開講、図書室の別置、夜間の研究体制など、アカデミック・プランとの擦りあわせが必要と思われる。また、中央図書館・総合研究棟のように、図書館機能を持つ部分とそうではない部分が一緒になっているため、一部不都合が生じている。第一期終了後に、大学院を集約し、使い勝手の良い研究棟の建設をお願いしたい。

A. 守衛所の置き方やエレベーターの配置によって、かなり遅い時間まで研究ができるよう、夜間対応を考えている。また、図書資料室については、中央図書館との重複が無いよう、なぜ別置するのか、その性格を明らかにして検討を進めたい。(粕谷総務担当理事)

Q. カトリックセンターのスペースは今よりも狭いと思われる。事務室のみの広さなのか。

A. 最終報告書にあるスペースはまだ確定ではない。カトリックセンターの広さについてはいろいろな意見があり、検討を重ねて最適なスペースを考えたい。また、設置場所については、学外に対して便利な位置になるよう考えているところである。(粕谷総務担当理事)

Q. 最終報告書の案では、一般外国語教育センターの教員研究室のある階と、CALL教室やAV教室などが設置される階が離れすぎているのではないか。相談室や相談業務体制を考えると、これらは接近している方がよいと思われる。

A. 総合メディア関連のスペースとも合わせて、今後、設置場所を検討したい。(粕谷総務担当理事)

Q. A地区の建造物は、研究・管理棟の機能を持つものであると思われる。であるとすれば、中層部に食堂があるというのは奇異な感じがする。移動によるエレベーターの混雑も予想される。

A. これまで上智大学の食堂は、1階や地階がほとんどであり、環境があまり良いとは言えない。

また、エレベータや上部の階層に匂いがこもるという問題点も指摘されている。食堂からの景色も楽しめるよう、学生へのサービスといった観点からも、中層階に置くことの意義がある。しかし、移動手段はさらに検討が必要である。(粕谷総務担当理事)

(4)上智短期大学検討専門委員会

(a)「上智短期大学の将来構想」

- 本最終報告については、都合により配布資料がないことを了解いただきたい。(高祖理事長)
- 委員会事務担当者から、最終報告書の説明があった。

(5)上智社会福祉専門学校検討専門委員会

(a)「上智社会福祉専門学校の将来構想」

- 委員会事務担当者から、最終報告書の朗読があった。

4. 各検討専門委員会報告書(2001年6月～2002年1月末)について

粕谷総括事務局長(総務担当理事)から、各検討専門委員会の報告書について説明があった。

今のところは2002年1月末までの状況となっているが、これを3月末の状態に更新して、次年度への申し送りとする。

5. その他

高祖理事長から、各委員に対して、多忙の中委員会での審議を重ね、最終報告書の作成にまで至ったことについての御礼と、今後とも「選択と集中」を念頭に置き、計画を推進していくこととするので、来年度も引き続いて検討を進めてもらいたい旨の協力要請があった。

また、2001年度末で交替される委員に対しても、感謝の意が表わされた。

6. 次回会議について

次回会議は、2002年5月1日(水)に行うこととする。

会議終了後、17:00より、上智会館第6会議室において、懇親会が開催された。

以上